

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：株式会社マスネットワーク	所在地：長野県松本市巾上 13-6
評価実施期間：平成 28 年 10 月 1 日から平成 28 年 12 月 20 日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 060802 060872 050231	

2 福祉サービス事業者情報（平成 28 年 11 月現在）

事業所名：ハーモニー桃の郷かがやき （施設名）	種別：生活介護
代表者氏名：理事長 寺田 裕明 （管理者氏名）所長 中村 行宏	定員（利用人数）：30 名（50 名）
設置主体：長野市 経営主体：社会福祉法人長野市社会事業協会	開設（指定）年月日： 平成 18 年 10 月 1 日
所在地：〒381-2226 長野市川中島町今井 1387 番地 5	
電話番号：026-285-3402	FAX 番号：026-285-1907
ホームページアドレス： http://nagano-shajikyo.or.jp/nsik/momonosato/lf_kagayaki_main.html	
職員数	常勤職員：9 名 非常勤職員 18 名
専門職員	施設長 1 名 サービス管理責任者 1 名 非常勤医師 1 名
	看護師 1 名 生活支援員非常勤 16 名
	生活支援員 5 名 書記 1 名 非常勤看護師 2 名 管理栄養士（兼務）1 名
施設・設備 の概要	会議室 相談室 医務室 食堂 浴室（特殊浴槽有り）

3 理念・基本方針

<p>基本理念 長野市社会事業協会は、利用者の人としての尊厳を大切にし、地域社会でゆとりと潤いのある、その人らしく、いきいきと自立した日常生活を送れるよう、利用者本位のニーズに合った福祉サービスの提供に努めます。</p> <p>基本的視点</p> <ul style="list-style-type: none">・私たちは、利用者や家族の声を大切にし、利用者と対等な立場で信頼関係を築きます。・私たちは、サービスの質の評価を行い、公正で良質かつ適切なサービスを提供するよう努めます。・私たちは、地域やその他の関係機関と連携し、より充実したサービスが受けられるよう努めます。・私たちは、サービス内容の情報提供を行い、個人情報を適切に取扱い、事業運営の透明性の確保に努めます。・私たちは、専門性を高めるため、常に研鑽し、資質の向上に努めます。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

ハーモニー桃の郷内の生活介護事業所（ぴあぼーと）と一体的な運営の中で、医療的ケアが必要な方など重度の障害をおもちの方と、その家族が安心して地域生活を送れるような支援を継続的に進め、重度者の拠点施設として充実を図っています。

日中活動は、送迎、入浴（特浴あり）、健康運動、理学療法、スヌーズレン等取り入れた支援をしています。また、季節に応じた各種の催しをはじめ、個別外出等、より利用者の生活の質が高められるよう取り組んでいます。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回初受審
---------------	-------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

特に良いと思う点

1 < 利用者の思いを共有する個別支援計画 >

個別支援計画の策定に際し、利用者の誕生日月を計画の更新時期と定め、その際に、利用者本人、家族、相談支援専門員、行政のケースワーカー、そして、施設の担当者が一同に会し、支援会議を開催し、利用者や家族の思いを関係者で共有している。

その結果を当施設の個別支援計画に反映させるだけでなく、相談支援専門員が策定する「サービス等利用計画」や行政からの支援とも連動させることを容易にしている。当施設の場合、多くの利用者が複数のサービスを利用しており、他サービスからの情報も重要であり、それらと相互に補完し合いながら、充実した支援を行っている。

また、更新時を誕生日月としたことで、施設内で個別支援計画を検討する時期が多くの利用者や重複せず、毎月の施設内の会議で十分な議論を行う余裕を持つことを可能としている。

2 < 複合施設の強みを活かした充実した自立支援 >

当施設は、同一の建物の「ハーモニー桃の郷」に、「相談支援」「就労移行」「就労継続 B 型」「居宅支援」「地域生活支援」の事業所があり、障害を持った人が自立生活に向かうため、連携がとりやすい。更に、これらのサービスの幾つかの施設長を当施設の施設長が兼務しているため、日常の情報交換を容易にしている。

また、それぞれのサービスを利用する利用者同士の交流もあり、利用者レベルでの交流や情報の交換も日常的に行われて、活気にあふれた雰囲気を作っている。

特に改善する必要があると思う点

1 < 身体・精神障害者の要望に応えた日中活動 >

知的障害者の日中支援施設として開所したが、制度の変遷により三障害一体の法律になり、身体・精神障害者の利用が増えつつある中、かがやきを利用する様々な障害を持つ利用者の目的も異なり、職員にとっても利用者の目指す個々の目標に向かい支援していくことにも課題を感じている。利用者のそれぞれの目的に沿った支援、利用者が一定時間、楽しく過ごすだけの施設ではなく、知的好奇心や自立心に応える支援が必要と思われる。

また、障害者の人権や個々の持つ可能性や悩みについて、利用者と職員が一人の大人同士として語り合い、認め合う機会が増えることも期待したい。

2 < 施設のスペースの不足 >

三障害一体に伴う利用者増に対し、サービスを提供するスペースの不足が深刻化している。

活発な動きを求める利用者が身体を動かすためには、複合施設の他の事業所のホールを借りる必要があり、移動や職員配置に苦慮している。一方で、重度の身体障害のために医療的ケアを行う場所や、精神的に不安定な利用者が落ち着いて過ごせる個室がない。設備面でも、重度の利用者のために導入した機械浴がスペースの問題で介護がしにくい。一般浴槽のスロープや脱衣所もプライバシーに配慮した支援には手狭でもあり使い勝手の課題を感じる。心身共に重度の利用者が増える中、早期の改善が必要と思われる。

また、複合施設全体においても、訪れる利用者や来訪者も増えているが、駐車スペースが少なく、地域住民に施設を積極的に開放し、関わりを重要視する当施設にとっては、深刻な課題と思われる。

開所以来、13年、制度の変化や地域の福祉ニーズに積極的に応えてきた当施設だが、設備やスペース等、安らぎのある生活や事故防止を考慮した施設整備の早急な取り組みに期待したい。

3 < 常勤職員のスキルと意欲の向上 >

職員全体におけるパート職員の比率が最も高く事業所内の、職員との協力体制によりきめ細かな連携や共有を持ち利用者支援に当たっている。

法人での、職員採用、職員の人事管理がなされている。意欲的に取り組む職員、嘱託職員が共に法人や施設が求める職員の将来像にむけ、更に職員のスキルの向上や経験・知識に基づく職員が様々な障害を持つ利用者の専門的な支援発揮ができるような仕組みや改善に期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

評価対象 1 及び（別添 1）

評価対象（別添 2）

8 利用者調査の結果

聞き取り方式の場合（別添 3 - 2）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添 4）

平成 29 年 1 月 10 日記載

今回の受診は、様々な角度からサービスを見つめ直す良い機会となりました。知的、身体、精神障害者の 3 障害を受け入れる施設として、近年、利用者から幅広い要望が寄せられています。

ご指導いただいた施設のスペース不足については、多様なニーズに対応できるよう関係機関と協議しながら構造化を図れるよう取り組んでまいりたいと思います。また、様々な障害へ対応できるよう、専門性向上のための研修に参加し研鑽に努めていきます。

複合施設全体においても、地域の中で理解され、支えてもらいながら共生していくことが必要とされています。日常的な地域とのつながりを継続し、今後も利用者から信頼されニーズに即したサービスを提供してまいります。